

第2回返子市地域自治システム小坪小学校区懇話会 会議概要

日 時：平成 25 年 4 月 14 日（日）10：00～12：00

場 所：小坪公民館講堂

出席者：

（メンバー）志村メンバー、神戸メンバー、宗貞メンバー、赤羽メンバー、宇田メンバー、大崎メンバー、安田（正）メンバー、黒羽メンバー、萩原メンバー、齋須メンバー、貴島メンバー（菌田メンバー）、高橋メンバー（酒井メンバー）、菊池メンバー、上野メンバー、小田原メンバー、飯塚メンバー（代理館氏）、福本メンバー、岸本メンバー、近藤メンバー、草柳メンバー（代理信太氏）、松井メンバー、西村メンバー、小守メンバー、金原メンバー、若菜メンバー、宮川メンバー、高野メンバー、三原メンバー、西メンバー、谷田メンバー、青木メンバー、山崎メンバー

（アドバイザー）名和田法政大学法学部教授

（市）平野経営企画部長、谷津経営企画部次長、廣末企画課長、仁科企画係長、稲井主事、森本市民協働部担当部長、細野市民協働課専任主査、木下市民協働コーディネーター

議事概要：

1. 開会（廣末企画課長）

2. 「ずしの新しい地域自治」の仕組みの詳細の検討（1）

○ 質疑応答

（メンバー）前回私が要望して今回配付していただいた参考資料の「地域で活動する団体等にかかる事業」だが、私が求めていたものと少々異なっている。私が求めていたのは、ここに参加している団体それぞれに、市のどの課がつながっていて、どういうお金をもらっているのかが分かる資料である。

今後は、それぞれの団体が、今どういうお金をもらっていて、今後それがどうなるのかというのが重要なファクターになってくる。市としてははっきり言わないが、人手も財源も足りなくなっていくなかで、地域の皆さんであつまって色々やってほしい、それに対して、今市が出しているよりも少ないお金を出します、という意味だととらえている。先ほどの事務局の説明では、この資料にある事業と交付金は別だと言っていたが、前回の懇話会で私が市長に「これをやらない選択をしたらどうなるのか」と聞いたところ、市長は交付金がもらえないとは言わなかったがそれに近いようなことを言っていた。

この地域自治システムの、地域の縦割りに横串をさしてみんなで連携するという目的には賛成でぜひ協力したいと思うのだが、そこにお金がからむと別で、非常にドロドロした話になってしまう。

また、「小さな政府のまま、自立した地域自治を創るために」の資料にもあるが、市は人

口が減って税収が減るからと言っているが、市が若い人を呼び込んで税収を増やすことはできる。そういう対策をうたないで、地域に仕事をなげるのはどうかと思う。

(事務局) 自治会・町内会に対して目的別にお金を出している場合はあるが、自治会・町内会自体に出している補助金はない。どの団体にどういうお金がでているかというのはお調べすることは可能だが、その内容を踏まえて事業や交付金の内容を検討するわけではない。補助金の見直しについては、新しい地域自治制度とは別に進められており、そこで削減したものがそのまま交付金の原資になるわけではない。補助金を少なくすることを目的としてこの制度を入れようとしているのではない、ということをご理解いただきたい。それよりも、まずは、地域でつながって活動していただく、そしてメリットがないと意味がないのでその活動に対して支援させていただく、と考えている。決して市の仕事を押し付けて、市が楽をしようとしているのではない。

(メンバー) 自主防災について地域にまかせたいと言っているが、我々がそれをやったからといって市民税が減るというわけではない。それでなくても、逗子市の市民税は、観光収入もないし、工場もないため他の市よりも高い。メリットを示していただかないと話がすすまない。

(メンバー) 私も同感であり、市がなぜこの制度を採用するのかはつきりさせたほうがいい。先ほど事務局は高齢化や財政の問題は関係ないと言っていたが、本音は関係あるんじゃないか。実際のところ、協議会が立ち上がりそれを担うのは高齢者ばかりであり、亡くなることもありうる。本当に協議会を担っていけるのか疑問である。また、市は必要に応じて支援すると言っているが、裏をかえせば必要がないときは支援しないという意味である。

○ グループでの意見交換「小学校区でつながれば、できそうなこと」

○ グループ発表

(グループ1)

- ・ 地区全体での運動会の開催はどうか。現在は各スポーツ団体ごとに参加しているので、団体に入ってないと運動会の存在も知り得ない。
- ・ 防災対策について、小学校については避難経路はあるものの、避難したその先、赤ちゃんのおしめやミルク、どう対応していくのか不安である。
- ・ 孤独死があるなかで、民生委員の方たちの情報だけではカバーしきれないので、自治体から情報を収集することによって、孤独死をカバーできるのではないか。
- ・ バーベキュー、レクリエーション施設ができれば、地域の価値が向上するのでは。

(グループ2)

- ・ 運動会をやれば、子どもから大人まで顔の見える関係ができるのではないか。
- ・ 自治会で防災倉庫をおければよいのではないか。
- ・ 地域住民が子どもとかかわりを持つために、色々な教育や活躍の場を与えられればよい

のではないか。

(グループ3)

- ・ 他の団体がどんな活動をやっているのか知らなかったので、こんなところができたらな、という話までには至らなかった。
- ・ ここで、他の団体の活動をうかがい、こんなこと知らなかったということがいっぱいあって、深いところにいい希望があるのではと思った。

(グループ4)

- ・ ワークシートのことは考えなかった。
- ・ 金の問題をどうするのか、協議会をどうするのか、ということ話を話していた。

(グループ5)

- ・ 地域が、もうちょっとせまい地域で、交通安全や見守りなどきづなが深められるような活動をできればよい。
- ・ 3. 11の後、学校、地域、避難所運営委員会がバラバラに活動をしているので、合同で何かできればよいのでは。

(グループ6)

- ・ 避難訓練を地域全体でできないか。幼児も学童も含めて、安全に避難訓練ができないか。
- ・ 小中学校の交通安全について、通学路の歩道が完備できていない。歩道がとぎれている部分があるので、みんな協力できないか。

(グループ7)

- ・ 子どもたちや若い人を呼び込むためには、運動会等がよいのでは。実際に運動会はやっていると聞いたので、もっと周知する必要がある。
- ・ 空き家の問題や高齢者や子どもの見守りについて、地域で情報を共有化して対応を考えていくのがよいのでは。

(グループ2) (補足)

- ・ みなさんのグループ発表を聞いて、防災について関心があるとうかがった。小坪地区自治会連合会では、地域防災検討委員会を設置しているが、毎回出席者が少なくて消滅しそうな段階である。是非みなさまに参加していただきたい。

○ 質疑応答

(メンバー) 協議会を誰が運営するのか。協議会という法人ができるわけではないとしたら、人間とリソースのメンバーはどうなるのか。ボランティアでやるのか、人を雇ってでもやるのかというのを教えてほしい。

(事務局) 協議会は地域住民のみなさまでつくっていただく、協議会の運営について議論があれば、交付金のなかで交付していくというのもありうる。事務局が必要ということであれば、組織というところでご意見をいただきたい。

(メンバー) 懇話会は4回と予定されているようだが、もっと時間や回数を増やしてじっくりと議論したほうがよいのではないか。

(木下コーディネーター) 時間や回数を増やすことについて賛成の方举手していただけないか。(→10人程度举手)

(事務局) 回数は目標なので決まりではない。また懇話会は意見をまとめるという会議ではなく、みなさまの意見をうかがう場である。お示ししている制度案について、ご質問、ご意見等があればぜひ市役所に寄せていただきたい。次回にまとめて回答させていただく。

○名和田アドバイザーより講評

・ワークショップはやらされ感があるかもしれないが、一般的なワークショップとは違って日本流に改良されているものを、さらに小坪にあわせて工夫しているように感じた。

・みなさんが、これだけたくさん真剣に考えて、話し合っていることに感銘をうけた。制度の詳細について、細かく説明してもらえないと不安だ、心配だというお気持ちはごもっともであるが、一方で行政のほうでは一生懸命頭をひねっている。私のほうでも、どのような仕組みが考えられるかについて、知恵を出していきたいし、みなさんも色々な疑問点を企画課にぶつけていただいて、意思表示してほしい。

(メンバー) 次回には、失敗例を示していただけないか。藤沢の件は知っており、交付金もらって街路灯をつけたら、満足してやらなくなったと聞いている。また、時間が少ないと不完全燃焼になってしまうので、あくまで2時間と固定するならば工夫してほしい。論議をつくして、みなさんが納得できるようにしてほしい。

(事務局) 失敗例について、自治体ごとに成り立ちがちがうので、そのままあてはまるわけではないが、ご提示させていただきたい。時間と回数については進行状況を見ながらご相談させていただきたい。

3. その他

○ 次回の日程は、6月16日(日)10:00～小坪公民館講堂